

第3章 糸島市の成長戦略

序論で述べた社会潮流と本市の現状分析を踏まえ、本市の強みを効果的に引き出すことで、本市がこの10年間で大きく成長し、まちの将来像である「人も元気 まちも元気 新鮮都市 いとしま」へと発展するため、次の3つの成長戦略を掲げます。

成長戦略 1

“いとしまブランド”の価値を高める

優れた交通利便性、豊かな自然、悠久の歴史・文化、新鮮で豊富な農林水産物、九州大学の立地など、本市は、“ここにしかない”固有の資源や強みを有しています。

「いとしまブランド」とは、これらの地域資源が組み合わせられることの相乗効果により生み出され、市民の誇りや人々の憧れを引き起こす、地域のイメージと言えます。

今後は、この“いとしまブランド”の価値を高め、市内外に向けて積極的に情報発信していくことで、定住化促進、企業誘致、雇用の場の確保、観光の振興などにつなげ、人口減少・少子高齢化が進行する中で、まちの活力の創造と子育てしやすい環境の形成へと結び付けることが求められます。

特に、地元の新鮮な農林水産物は誰もが魅力を感じる要素であり、食を通じた観光・交流、食育などの取組を推進し、地産地消のサイクルを確立することで、まちの魅力向上が大きく期待できます。

また、レジャー・レクリエーションの場となっている美しい海や市域の45%を占める森林を、国や県との連携によって積極的に保全するとともに、豊かな自然環境と生活利便性を兼ね備えた質の高い住環境を整備することで、「住んでみたいまち」「訪れてみたいまち」として人々を惹きつける環境形成を図っていく必要があります。

成長戦略 2

九州大学の“知力”と“若い力”を生かす

九州大学の伊都キャンパスへの統合移転により、多くの人材や機関などの知的・人的資源が糸島に集積されています。

この機会を生かし、九州大学や他の大学、企業、研究所と行政の連携を深めることによって、農林水産業や商工業などの地場産業の振興、企業や研究所の誘致、新産業の創出、関係者の定住化などを進め、学術研究都市を構築していく必要があります。

また、糸島の宝である自然環境を積極的に守り、育てていくことが強く求められています。今後ますます重要性が高まる環境やエネルギーの問題へ適切に対応するためにも、九州大学の「知力」を結集し、本市を実証実験の場として活用するなど、産学官が共同で研究、開発などに取り組み、環境先進都市としての糸島を目指していくことが必要です。

さらに、大学の魅力である「若い力」や東アジアを中心とする諸外国からの留学生・研究員を地域に温かく受け入れ、地域との交流を通して新たな糸島文化を創出し、その魅力を市民に実感してもらうとともに、国内外に向けて積極的に発信していく必要があります。

成長戦略 3

“市民力”を発揮できる仕組みをつくる

少子高齢化の進行と人口減少社会の到来は、経済成長の鈍化、税収の減少、社会保障費の増大、貯蓄の縮小、投資の制約などをもたらし、従来型の行政運営ではまちの維持・発展は望めなくなっています。また、急速な情報通信技術の発達、それに伴う文化や価値観の変化によって、行政の力だけでは多様化する市民ニーズに対応することが難しくなっています。

このような状況において、これからのまちづくりの主役である市民が行政と一緒に、まちづくりの目標を共有することが重要です。そのためにも、情報通信技術を活用するなど、市民へのスピーディーな情報提供、市民相互の情報共有を進め、市民がまちづくりに参画しやすい仕組み・環境づくりを推進していく必要があります。

また、単に人口だけを増やすのではなく、未来を担う子どもたちを含む市民全体の資質を向上させ、まちづくりを強力に進めていく人材を育てていくことが、本市の成長・発展のかぎとなります。

子育て、保健、福祉、教育、生きがいつくり、環境保全、防犯、防災など、多方面にわたるまちづくりに「市民力」が発揮され、ともに支えあう社会が実現できるよう、地域コミュニティの維持・強化と、市民の自主的な活動をサポートしていく必要があります。



糸島クラフトフェス(志摩初)

“いとしまブランド”の
価値を高める



糸島カキ



九州大学

九州大学の“知力”と
“若い力”を生かす



九州大学留学生との交流会(長糸校区)



風止め相撲(志摩芥屋)

“市民力”を発揮できる
仕組みをつくる



間伐研修会(浮嶽)